月刊FALCOM MAGAZINE

Vol.
172



『イース・メモワール
-セルセタの樹海-
オリジナルサウンドトラック』
レビュー

ファルコムニュース

英雄伝説 零の軌跡
午後の紅茶にお砂糖を

真の聖女が
ザナドゥにやってきた!?
も〜っと集まれ！ ファルコム学園

英雄伝説 空の軌跡
&
啄木鳥しんきのFalcom日和

発売日が決定!
カシウスほかキャラクターイラストが一挙到着!!

『空の軌跡 the 1st』



FALCOM MAGAZINE

CONTENTS

空の軌跡 the 1st

ソラノキセキ ザ・ファースト

発売日が9月19日に決定！ さらにキャラクタービジュアルが続々と登場!!



『軌跡』シリーズの原点『英雄伝説 空の軌跡』の完全フルリメイクとなる『空の軌跡 the 1st』の発売日がついに9月19日に決定。あわせて、様々な特典が用意された各商品版の詳細や、シリーズお馴染みにもなっている魅力たっぷりなキャラクターの新イラストが続々と明らかに！　また、バトルシステムの新情報も到着しているので、チェックしていこう。

『空の軌跡 the 1st』公式サイト
https://www.falcom.co.jp/sora/

空の軌跡 the 1st

●発売日：2025年9月19日　**●ジャンル**：ストーリーRPG
●対応機種：Nintendo Switch / PlayStation 5 / Steam
●プレイ人数：1人　**● CEROレーティング**：B
●価格：【ブレイサーBOX（パッケージ）】15,400円（税込）
【通常版（パッケージ／ダウンロード）】8,800円（税込）
【デジタルデラックス版（ダウンロード）】12,100円（税込）
【シーズンパス（ダウンロード）】3,850円（税込）

カシウス・ブライト

（CV：浜田賢二）



年齢：45歳

エステルの父親。引き締まった体格と、ダンディな口髭が印象的な中年男性。ベテラン遊撃士としてリベール王国のみならず大陸全土で活躍しており、エステル・ヨシュアのほかシェラザードの師匠でもある。
ヨシュアを拾い養子にする大胆不敵さと、気さくでお茶目な性格から、娘のエステルからは『不良オヤジ』のレッテルを貼られている。
剣の流派の一種『八葉一刀流』を極めた剣士でもあり、元《剣聖（けんせい）》の異名を持つ。

「フフン、まだまだ青い。一人前になりたかったら早く《正遊撃士》になることだな。」







アルバ教授

（CV：飛田展男）

「古代のロマンを感じますよね!?
いやぁ、判ってくれる人がいて嬉しいなあ!」







年齢：37 歳

古代の遺跡を研究調査するため、リベール王国にやってきた貧乏考古学者。
物腰の柔らかい穏やかな人柄で、いつもにこやかな表情を浮かべている。
臆病者にもかかわらず、研究に熱が入ると危険な場所に立ち入ってしまう為、魔獣に襲われるなどの災難に遭うことも。



アイナ・ホールデン

（CV：鈴代紗弓）

「今日の研修が終われば
晴れて遊撃士（ブレイサー）の仲間入りね。」



年齢：23 歳

リベール王国の遊撃士協会ロレント支部で受付嬢を務める女性。
正遊撃士を目指すエステルとヨシュアを優しくサポートしている。
シェラザードの親友で、実は見た目に寄らず彼女以上の酒豪（ザル）。







ナイアル・バーンズ

（CV：鶴岡聡）

「ゴシップ載せてもヨタは載せねぇのが《リベール通信》のポリシーなんだ。」









年齢：29 歳

ニュース雑誌《リベール通信》担当の敏腕記者。
無精髭のヘビースモーカーだが、ジャーナリストとしての腕は確かで特ダネの為であれば多少の危険もいとわない。
後輩カメラマン・ドロシーのお目付け役として、彼女の突拍子もない行動に毎度手を焼きつつ、良いコンビとして忙しない毎日を送っている。
記事のネタを求めてロレント市を訪れた際、エステルとヨシュアを護衛・案内役につけることに。

ドロシー・ハイアット

（CV：遠野ひかる）

「ああ、ナイアル先輩！どうか助けてください～！」



年齢：20 歳

リベール通信社の新米カメラマン。
強烈な天然ボケ＆超マイペース娘で、先輩記者・ナイアルの悩みのタネであるが本人は全く気にしていない様子。
カメラの腕だけは一流で、独特な撮影方法ながらも息をのむような写真を撮るらしい。







ジョゼット・ハール
（CV：永瀬アンナ）

「まあ……！　感激ですわ、本物の遊撃士に巡り合えるなんて！」









年齢：16 歳

ルーアン地方にある、名門・ジェニス王立学園の女子生徒。お嬢様ながら、その身分を鼻にかけない気立ての良い性格。自主研究の一環として各地の重要文化財を調べているらしく、学園の休み期間を利用してエステル達の住むロレント市を訪れる。

2つの戦術を切り替えて敵を撃破しよう！

バトルシステム解説

『空の軌跡 the 1st』では、『空の軌跡』シリーズおなじみのコマンドで戦う【コマンドバトル】と、フィールド上で直接敵を攻撃する【クイックバトル】の２つの戦術が用意されている。敵の強さや状況にあわせて上手く使い分けて戦っていこう。

コマンドバトル

敵とエンカウント後に AT（アクティブターン）をもとに戦闘を行うコマンドバトル。【ATボーナス】という、ATバーに表示されたアイコンに応じて敵味方ともに様々なボーナスを受けることができます。

クラフト



CP（クラフトポイント）を消費して放つキャラ固有の技です。

アーツ



EP（エネルギーポイント）を消費してアーツ（魔法）を発動します。

防御

受けるダメージを半減します。ディレイ（硬直時間）も通常攻撃の半分になるため、行動順の調整にも使えます。

ブレイブアタック／追撃・チェイン・バースト

スタンゲージが 100%になると敵がスタンし、1ターン行動停止となります。スタン発生時／スタン中の敵を攻撃すると「ブレイブアタック」が発動します。ブレイブアタックでは、仲間による追撃、チェイン、バースト、フルバーストが可能となります。スタンのほか、クリティカル攻撃発生時も100%の確率で「ブレイブアタック」が発動します。また、クイックバトルで敵をスタンさせてからコマンドバトルに切り替えると、即座に「ブレイブアタック」が発動します。



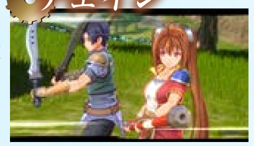


追撃



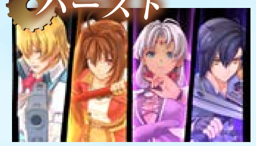
プレイヤーキャラに続き、パーティメンバーの１名が追加攻撃します。追撃後、ブレイブゲージを１本消費します。

チェイン



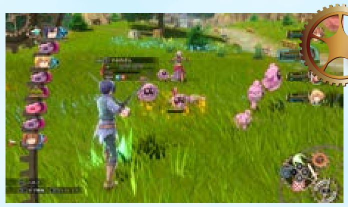
プレイヤーキャラ＆パーティメンバー１名の連携による範囲攻撃です。発動時にブレイブゲージを３本消費します。

バースト



デバフ解除＆パーティメンバー全員による敵全体への一斉攻撃です。発動時にブレイブゲージを５本消費します。

オーバードライブ



対象キャラにオーラが出ている状態で発動可能な「戦術オーブメント」の機能です。オーバードライブ発動時には２ターンの間デバフ無効と自身に強力なバフが付与されます。また、オーバードライブ中に攻撃すると100%の確率で「ブレイブアタック」が発動します。

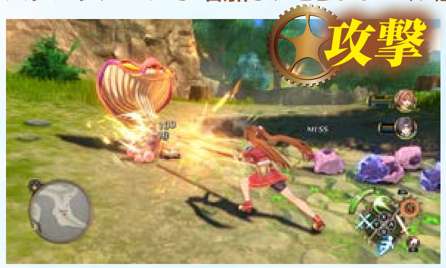
サポートアビリティ

特定の条件下で様々な支援行動が発動します。戦闘を重ねたり、料理を食べることでサポート EXP を入手していきます。サポート Lv が上がることで新たなアビリティを入手したり、より強力なアビリティへと変化します。



クイックバトル

フィールド上で直接敵を攻撃するバトルシステム。特に敵のレベルが自分が低い時に有効で、ダメージ、スタンダメージが増加し、さらにレベル差が５以上になると与ダメージが２倍となります。



攻撃

得意武器による通常攻撃。ボタンを連打することで連続攻撃に変化します。



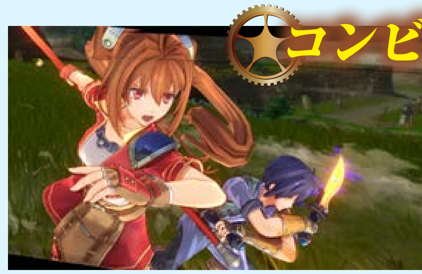
クラフト

チャージゲージを溜めることで、キャラ固有の技「クラフト」を発動することができます。クラフトは通常攻撃より威力が高く、敵をスタンさせやすくなっています。クラフトは最大２回まで連続発動が可能です。



回避

バックステップやローリングで敵の攻撃を回避することができます。回避後に攻撃を行うと、ジャンプ攻撃に変化します。敵の攻撃にあわせてタイミング良く回避を成功させるとジャスト回避となりチャージゲージが最大回復します。

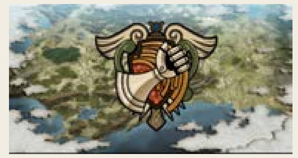


コンビアタック

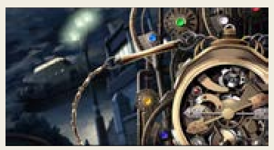
ブレイブゲージを消費して、エステル＆ヨシュアによる広範囲の必殺攻撃を発動します。

KEYWORD01 遊撃士（ブレイサー）

「地域の平和と民間人の保護」を理念に、市民の依頼を解決したり魔獣退治や犯罪防止を行っている国際的な民間組織。大陸各地に支部があり、その国際性・中立性から国家間紛争の仲裁などにも一役買っている。



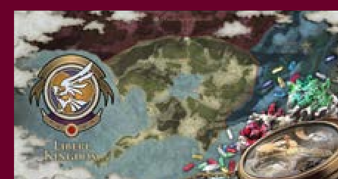
KEYWORD02 導力器（オーブメント）



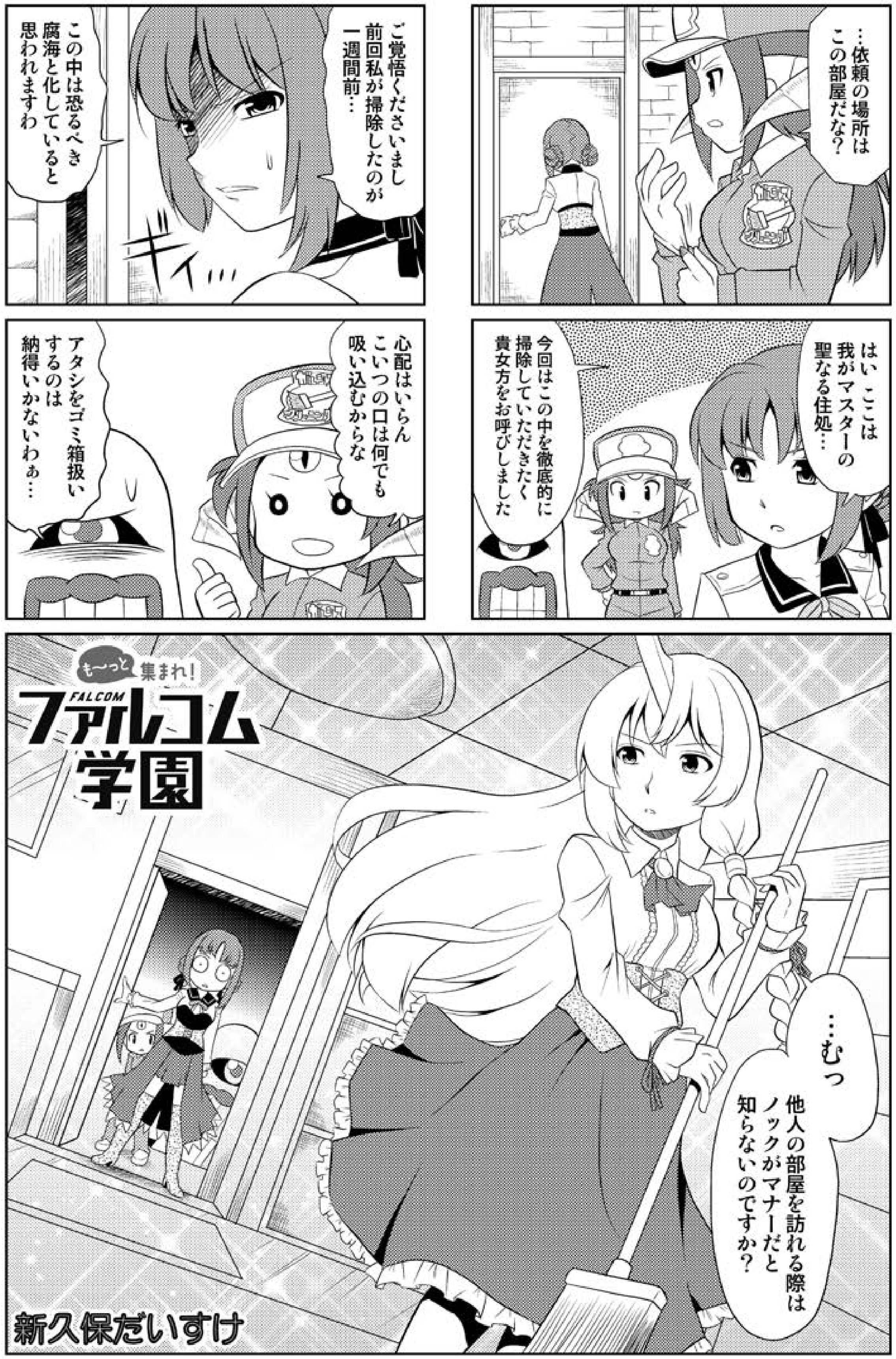
《導力》とよばれる神秘のエネルギーで動く機械仕掛けのユニット。内部には七耀石（セプチウム）を加工した回路が格納されており、その機構に応じて様々な現象を発生させることができる。50年程前にC・エプスタイン博士が発明した《導力器》はまたたく間に大陸全土へと広がり、照明・通信・工作機械・兵器・記録媒体・飛行船など様々な技術に応用されていった。

WORLD リベール王国

ゼムリア大陸南西部に位置する、豊かな自然と王家の伝統が息づく小国。
周辺諸国より国力では劣るが、豊富な七耀石（セプチウム）資源と優れた導力技術、巧みな外交政策によって対等な関係を築いてきた。
10年前、北の大国・エレボニア帝国による侵略で大きな被害を受けたが、現在は女王アリシア・フォン・アウスレーゼII世のもと誇り高き平和を維持している。



★マスターがいなければマスターになればいいじゃない★



もうこのままでもいいや



絶望自慢大会



心当たりのある男



自分を信じて



美少女の証明



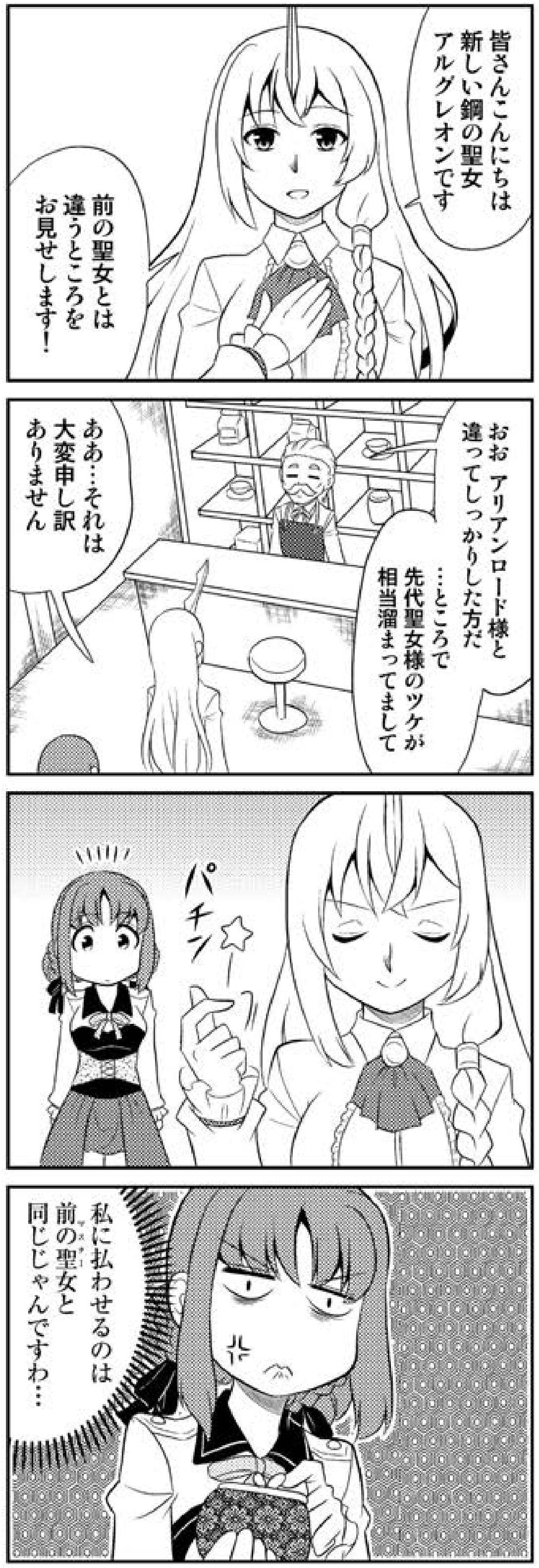
わがままなこども



聖女への第一歩



先代の精算



忘れたころのアレ



無言の訴え



取り繕う宰相



転売防止策



聖女、動く



汚物の才能



▶ファルコムニュース◀

ファルコムファンに贈る最新ニュースをピックアップ！

ファルコムのLINEクリエイターズスタンプ第48弾「ピッカード」発売中!!

「イース」シリーズに登場する愛らしい家畜『ピッカード』のLINEスタンプが新登場。



LINE STORE	https://store.line.me/stickershop/product/30261587/ja

「イース」記念グラス2種登場！

ファルコムショップのオリジナル商品に「イース」の記念グラス2種が登場。「イース」第1作がPC-88で発売された記念日6月21日頃にお届け。



イース世界地図 ショットグラス

広大なエレシア大陸から北アフロカ大陸まで、冒険家アドル・クリスティンの旅の足跡を記した世界地図がショットグラスに。底面にYsロゴを配し、ガラス素材でスタイリッシュに仕上げた大人の冒険アイテムです。

■サイズ：口径49mm／高さ63mm／容量55cc
■価格：1,540円（税込）





ピッカードゆらゆらグラス

「イース」シリーズの世界で食用の家畜として広く飼育されているピッカード。
そのまるまるっとした姿を、そのままグラスに！
ゆらゆらゆれるピッカードがとてもかわいいです。

■サイズ：口径65mm／高さ80mm／容量340cc　■価格：1,650円（税込）

ファルコムショップ	https://falcom.shop/products/list?tag_id=7

NIPPONBASHI GAME SHOW開催決定！

大阪のジョーシン日本橋店にてNIPPONBASHI GAME SHOWの開催が決定。日本ファルコムのブースでは7月31日発売のNintendo Switch2「イースX -Proud NORDICS-」の試遊体験をお楽しみいただけます。
ご試遊いただいた方に特製ノベルティのプレゼントも。さらに、新商品「イース」の記念グラス2種を含む、ファルコムショップの一部商品を展示予定！実物をご覧いただけます。
※イベント会場内での販売はございません。







■開催日時
2025年6月21日（土）、6月22日（日）10:00~17:00《入場無料》
■会場
ジョーシン日本橋店 7階イベントフロア
※会場にはみっしぃバルーンのフォトスポットも登場！
※人数が多い時間帯は、整理券を配布させていただく場合がございます。

ファルコムトピックス
https://www.falcom.co.jp/archives/187377

『軌跡シリーズ』フィギュア「アルティナ 界Ver.」1／8スケール予約受付中！



コトブキヤ × 日本ファルコムが贈る『軌跡シリーズ』フィギュア化計画「アルティナ・オライオン 界の軌跡Ver.」の1/8スケールフィギュアの予約を受付中です。
トールズ士官学院卒業後、元教官であるリィンとともにカルバード共和国へ渡った際の姿で立体化しました。長く伸びた美しい流れを描く髪は、クリアパーツにグラデーション塗装を行うことで再現。かつての彼女に比べて伸びた背丈はもちろん、様々な人との出会いの中で成長した彼女の内面を表すような柔らかな表情にも注目です。





■メーカー受注締切：2025年6月17日（火）
※以降は上限に達し次第受付終了
■発売日：2025年11月予定
■価格：19,800円（税込）

コトブキヤオンラインショップ	https://shop.kotobukiya.co.jp/shop/g/g4934054065592/

32年分の大比較。PC-9801からNintendo Switchへと繋がるIVの遺伝子。その変遷を辿る。

紆余曲折を経て放たれたファルコムオリジナルイースIVが、2012年の発売から13年の時を経て復活。今回、新たにフルアレンジされた全36曲収録のCDが、パッケージ購入特典として制作されることになった。Nintendo Switch版の音楽はいかに生まれ、いかに変わったのか。

text by 井上尚昭(ゲーム音楽ディスクガイド)

「セルセタの樹海」は1993年のイースIVを原典としているものの、オリジナルはファルコム制作ではなかったという異例の経歴を持つ。設定やシナリオ、音楽などはファルコム発案だが開発は他社で行い、これまで初売りをPC機で行ってきた流れを汲まず、家庭用ゲーム機でリリース。それも同時期にふたつのまったく異なる内容の作品が2機種で出るという、例を見ない展開となる。その一方で、やはり自社制作によるIVは待望されるところであり、ようやく実現したのが2012年のPS Vita用「イース セルセタの樹海」で、2019年のHDリマスター「イース セルセタの樹海：改」を経てNintendo Swichに移植されたのが本作となる。自社制作版はリメイクでなく新作であり、またSFC版より前の時代の物語という位置づけもあってナンバリングは与えられていないが、楽曲の大半は継承されている。

初めに音源が到着したのは、1993年11月のアルバム『イースIV J.D.K.スペシャル～ザ・ドーン・オブ・イース』で、ファルコムスタッフの手によってFM音源（おそらくPC-9801）で演奏されたもの。これを元に各メーカーが機種ごとにアレンジを施していく為、音の原作とでも言うべき存在である。（ちなみにこの音源でプレイできる作品が存在する訳ではない）同月にSFC版が、12月にはPCエンジン版のゲーム本編が発売されるのだが、サウンドトラックリリースはなく、（一部、雑誌付録などに数曲収録されたがここでは割愛する）『ファルコム・スペシャル・ボックス'94』に収録された米光亮氏によるスーパーアレンジを経て、1994年2月から全曲アレンジ盤「パーフェクトコレクション イースIV～ザ・ドーンオブイース」を3タイトル順次リリース。ゲーム発売から1年経過した1994年12月の『ファルコム・スペシャル・ボックス'95』に、前述『J.D.K.スペシャル』に入っていないFM音源曲を補完し、フィジカルリリース類は一旦の完結を見ている。こうしてIVは、FM音源版と米光亮アレンジ版というふたつの非ゲーム実装アルバムを基本とし、機種ごとにアレンジや楽曲の使い所を変えながら運用するものの実機サントラがないという状態が続く。

2012年、満を持してファルコム自社制作のIVにあたるPS Vita版「セルセタの樹海」が発売される。楽曲内訳は、全36曲のうち23曲はIVからのアレンジ、13曲は書き下ろしで、ゲームシステムなどに大きな変化はありつつも音楽面からは相当遺伝子を感じることができ、また初めて正式にサウンドトラックが発売されたエポックな作品となった。Nintendo Switch版はPS Vita版とまったく同じ曲数でアレンジのみ変更。随分変えてきたな、というのが初見時の印象だ。PS Vita版は米光亮アレンジ版をベースに実機に落とし込んでいくのに対し、Nintendo Switch版は現jdkの音楽性でもって、改めてゼロから向きあったように受け止められる。たとえばM-3「燃ゆる剣」はシンセメロとキラキラ音色が際立っていたが、今作はギターとバイオリン、それにツーバス使用でメタリックにモデルチェンジ。M-4「セルセタの樹海」も、メタルとは言わないまでもエレキギターが引っ張る作りである。M-8「バトル#58」はピコリーモ風のシンセを導入し、前作から13年の成熟を感じさせるが、逆にM-10「灼熱の炎の中で」は元のシンセをオルガンに差し替えて70年代風ロックにと、大きく時代を遡らせている。M-15「一陣の風」も似た例で、キラキラシンセを完全にオミットし、いにしえのプログレへすげ替えた。これらはM-17「導きの塔～エルディール」などにも言えることだが、ドラムサンプラーの進化や、以前と比べて聞き手の耳がベースという楽器にも行くようになり、グルーヴ重視のサウンド志向に変化していった時代背景も手伝っている。ベースのフレーズがよく動いて楽曲を牽引していく様がよく分かる。

一方でシンセオーケストラやニューエイジ系の音楽には大きな変化をさせていない。もとより普遍性の強いジャンルではあるが、余計な手入れをする必要のないパートという判断なのだろう。音色を差し替える程度にとどめているが、しかしよく聞けばハープひとつ取っても生っぽさの表現力が上がっていることが分かる。編成が少なければ少ないほど編曲面で弄りようがないという部分にこそ、テクノロジーの進化が見て取れ、木管楽器やピアノなどのアコースティック系は解像度が軒並み上がっているのだ。つまり時代の後押しによる全体の生楽器推進が、まるでNintendo Switchの中にオケピが設置され、そこに陣取ったFalcom jdk BANDやオーケストラがリアルタイムに演奏しているかのような……そんな像がこのアルバムに結ばれているのではないだろうか。



■商品情報
イース・メモワール
-セルセタの樹海-
オリジナルサウンドトラック

イース・メモワール -セルセタの樹海-
●好評発売中
●ジャンル：アクションRPG
●対応機種：Nintendo Switch
●プレイ人数：1人
●CEROレーティング：B
●価格：[パッケージ版] 4,840円（税込）
[ダウンロード版] 4,840円（税込）

※「イース・メモワール -セルセタの樹海- オリジナルサウンドトラック」CD盤単品での販売予定はございません。
※初回生産分にのみつく限定特典です。


英雄伝説
空の軌跡
ソラノキセキ
漫画　啄木鳥しんき
原作　日本ファルコム
実は……事件の日にな
ちょうどレイストン要塞から応援に来た
王国軍情報部のカノーネ大尉とはちあわせてよ…


リベール王国次期女王たるわたくしの名に賭けて！
リベール王国に姿を現した、
結社《身喰らう蛇》の牙・執行者たち。
その動きと示し合わせたかのような
エレボニア帝国の不穏な行動に王国は揺れる。
そして物語は、古代ゼムリア文明の精華・
リベル＝アークへと飛翔する！
英雄伝説 空の軌跡SC
～絆の在り処～⑥
啄木鳥しんき
定価：1000円（本体909円+税）　ISBN 978-4-8021-3294-7
発行：フィールドワイ　発売：メディアパル
©Nihon Falcom Corp. All rights reserved.
©Kitsutsuki Shinki
©FIELD-Y


なんですって!?
では…犯人は王室親衛隊だと!?
いいえ おそらく そいつらは 偽者ですよ
え…
まあ…まだ推測に すぎませんがね
幸い筋のいい 遊撃士たちが 犯人逮捕に 動いてますし
じきに 連中の正体も はっきりするでしょうよ
……
その賊を カメラに収めたと おっしゃいましたね
ぱっちりと!
はいっ
偽者とはいえ 見た目は 親衛隊の姿
写真が 公開されれば 余計な誤解を招く 恐れがあります
ドロシーさん
そのカメラの 感光クォーツ
我々に預けて いただけませんか?


そ…それは ないでしょう カノーネ大尉!
え～
報道規制する 気ですか!?
そう…ですね
同じ軍人として 身内をかばっていると 批難されても 仕方ありません…
ですが…… 王室親衛隊は 私たち王国軍の 誇りなのです
彼らの…ひいては 女王陛下の名誉を まもるためにも
どうか……
う…
ほお
い……っ いやいやいや!! しかし!! それと これとは
わかりました
ああ～っ
どうか 親衛隊の皆さんを 守ってください!
あ～～あ～…


……って
ついでに関係ない写真まで丸ごと渡しやがってよ…
うっうっうっ
だから私感光クォーツを返してもらいにレイストン要塞まで行ってきたんですよ
えらいでしょー
返してもらえなかったら意味ないだろーが!!
その時に撮ったのがその写真なんだよ
ね… ねぇ… ドロシー…
写真を撮った時
上空を何か飛んでたりしなかった?
上空?
ほら…
ここ
何か写ってるように…見えない?


あーーっ
ほんとだー!
でしょ? でしょ?
これなんだと思う?
鳥さんじゃなさそうだし…
飛行船かなー?
飛行船!?
楽しそーだなー
要塞の中に入ってくようにも見えるから…軍の警備艇なのかも?
なにしてんのよ
軍の…?
そう…なんだ……
……いや
このシルエットは警備艇じゃないよ
やっぱり……!!
これって…


ラッセル博士をさらった飛行艇!!
なっ なんだって!?
間違いないわ!! あたしこの目で見たんだから!!
犯人の船はこの要塞の近くに逃げて来たのよ!!
待て待て!!
なんで犯人がわざわざこんなルートを選ぶ必要があるんだ?
よりにもよって王国軍の本拠地レイストン要塞だぞ!?
身元不明の船なんざ近づくだけで速攻撃ち落とされるのがオチだぜ!?
だけどこの船は落とされずに優雅にお空を飛んでますよー?
それは…だな!!
なんか他に要因が…
つまり船に気付かなかったここの軍人さんが無能だと…
おまえが言うか!?
あーもう!!
こんな所でぐだぐだ言ってても仕方ないわ!!


こうなったら
直接乗り込むっきゃないわよね!!
ええええ
あ
じゃなくて!
慎重に…
状況を把握…
確かに色々な可能性が考えられるけど
ここはエステルの言うとおりだと思う
ヨシュア!
僕たちもレイストン要塞に行って事情を聞いてみよう!


えとえと…
よかったら
これ
お洗濯が
終わるまで…
お父さんの服で
悪いんですけど
サイズは…
大丈夫ですか？
ああ
問題ねぇ
よ…
よかったぁ
あ…あの…
お口にあうか
わかりませんが
よかったら
…どうぞ！
じゃあ わたし
急いで服を
直してきます
ぱた
ぱた
それまで
自由に
くつろいでて
くださいね
ぱた
ぱた
あぁ

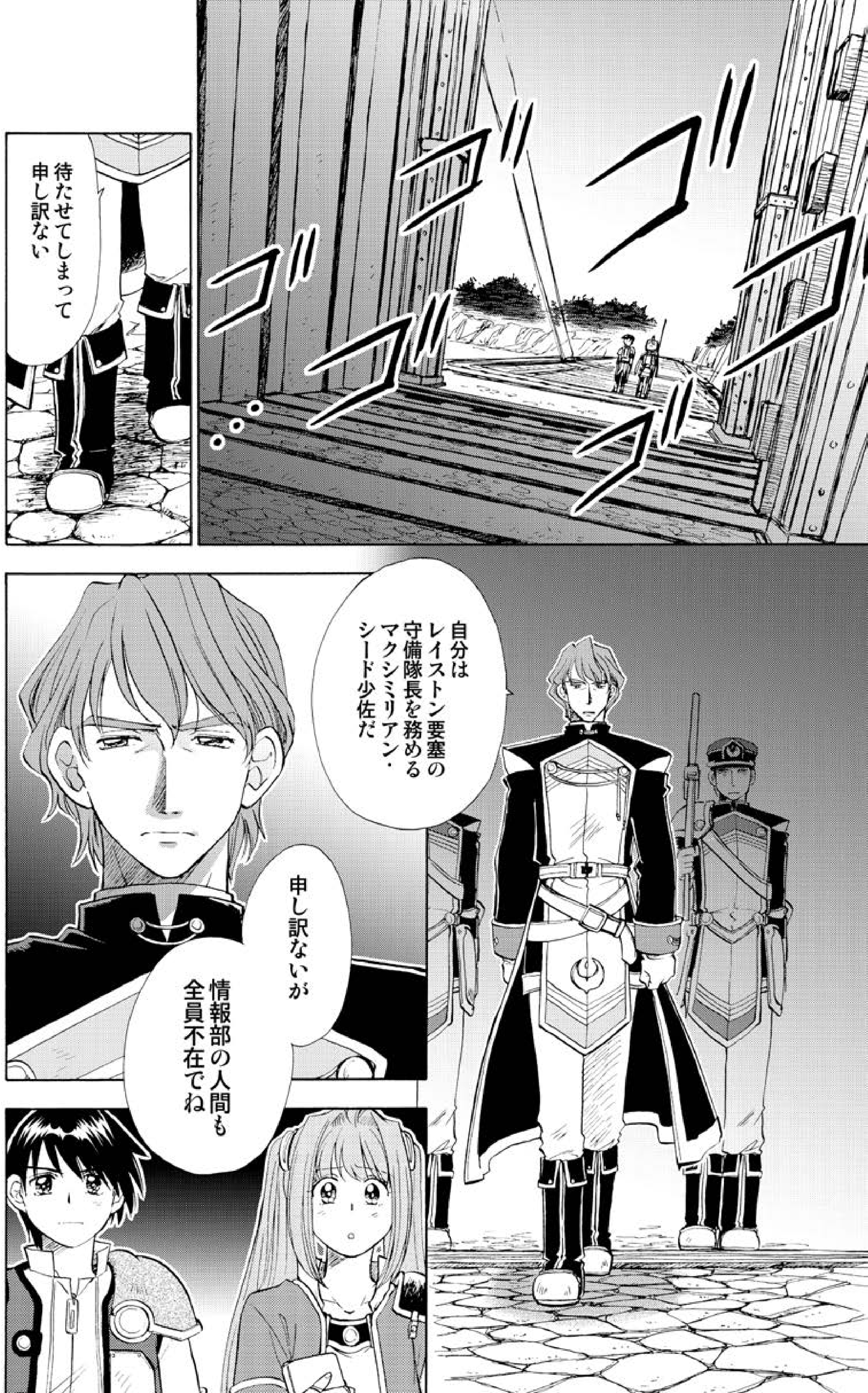



パタ
パタ
ツァイスの街から
リッター街道を経て
ソルダート軍用路を
北に進んで行くと
ヴァレリア湖南岸に
ひときわ大きな
建物が見えてくる


ここが
王国軍総司令部
レイストン要塞だよ
うわ――…
なんか…
威圧感が
ハンパないね
リベール王国
最大にして最重要の
軍事施設だからね
実際 10年前の戦争でも
この基地は陥落せず
反攻作戦の拠点と
なったそうだよ
よーし…
じゃ
いっくわよ
――!
君はつくづく
物怖じしない
子だね
そんな必要は
ないでしょ?
別に敵が出てくる
わけじゃないんだし


何だね 君たちは
え!? 誰!?
落ち着いて エステル
ここは レイストン要塞だ 民間人の 立ち入っていい 場所ではない
あ…
スピーカー?
悪いが 引き返して もらえるかね
あたしたちは 民間人じゃないの
あたし 遊撃士協会の エステル・ブライトと いいます!
同じく ヨシュア・ブライト です
中央工房が 襲撃された件について お話があります
責任者の方に 会わせて いただけますか?


………
生憎 責任者は 留守にしている 最中でね
ではどなたか 情報部の方を お願いします
リシャール大佐か カノーネ大尉に 至急伝えてもらいたい ことがあるんです
ね…ねぇ ヨシュア…
リベールで 一番大事な 基地の責任者が 留守って…
よくある ことなの?
来たよ エステル
ガゴン
扉が ひとりでに…
ゴゴゴゴゴゴ
この要塞の扉も 導力で作動している みたいだね


ゴゴゴゴ
ゴ
ゴ
待たせてしまって
申し訳ない
自分は
レイストン要塞の
守備隊長を務める
マクシミリアン・
シード少佐だ
申し訳ないが
情報部の人間も
全員不在でね


伝言があるなら
自分が
聞いておこう
実は
では
シード少佐
この写真を
見ていただけますか
これは…
レイストン要塞
じゃないか
どうして
こんな写真を…
ごめんなさい
勝手に基地を
撮影したことは
大目に見て
ほしいの
で…これが
どうかしたのかね
よく見て
少佐さん
右のほうに
飛行船が
写ってるでしょ？
飛行船
……？
あの…
中央工房が
襲われて
ラッセル博士が
連れ去られた
ことは…
知ってます
…よね？


無論だ
中央工房から
連絡を
受けているし
捜索も
始めている
よかった
あたしたちも
その犯人と博士の
行方を追ってるの
実は
博士をさらった
犯人の飛行艇が
その写真に
写ってる飛行艇と
そっくりなんです…
だから
ここに来てみれば
何か話が聞けると
思って！
ズッ
なるほど…
協力
感謝する
情報部に
伝えておこう
では
失礼する
あ…
はい！


へ？
ちょ…
ちょっと
待って！
それだけ!?
それだけ
とは？
なによ…
それ…
犯人の
飛行艇が
ラッセル博士への
唯一の手掛かりが
この近くに来たかも
しれないのよ!?
それを見逃したのは
完全にこちらの
不手際だな…
申し訳
ない
そ…っ
そんなことを
言ってるん
じゃなくて…
シード少佐
ひとつだけ
聞かせて
もらえますか


今
情報部の方は
どちらに？
……
…軍事機密だ
ガゴン
ゴゴゴ
あ！
待ってってば!!
シード少佐っ!!


ゴゴゴ
ねぇ
ヨシュア…
…こんなこと
考えたくは
ないんだけど…
わかってる
だけど
思ってたより
ガードが固い
これ以上
追及するのは
無理だよ
せめて
あと一歩…
決定的な証拠が
つかめれば…


シン…
…あれ?
な
なんだ
どうして途中で止まったのだ?
……
なに!?
また!?
例の現象が起こっただと!?


ヨシュア!!
これって…
…みたいだね
戦術導力器も作動しない
カチッ
カチ
カチ
あの夜と同じ現象だ
これは黒の導力器による導力停止現象
この要塞の中にラッセル博士がいるって証拠だよ


あ
あの
お待たせ
しました!
できましたよ!
アガットさ…

とっぷり
あ…あの…
あわわゎ
ア…
アガットさん…
ん…
す…
すみません
すっかり遅く
なっちゃって…
……
そっか…


よかった…
ミーシャ…
……?
ミーシャ…?
ガばっ!!
な…
ま…
聞…
すっ
すみませんっ
ふえっ
そのっ
服の直しが
終わったので…っ


アガットさんに
見てもらおうと
思って…
遅くなって
すみません
でした!
そ…
そっか…
ど…
どうですか
……?
おお—
これ…
ほんとに
おまえが
直したのか?
は…
はい…
どうで
しょ
ぴゃあああっ
どうって…
文句ねぇだろ
この出来は
そっ
そうですかっ
ああ
すげーな
おまえ


ぱさっ
あっ あのっ
ん？
ごそごそ
ひ〜〜〜ん
その…えと…えと…
ミ…
ミーシャさんって誰なんですか？
……
もしかして…
アガットさんの恋人…とか…？
ごめんなさい 聞いちゃいけませんでした？
いや…


ミーシャってのは…俺の妹だ
妹さん!?
そうなんだ…
妹さんっていくつなんですか？わたしより年上？
わぁ〜
ああ…
いや…そうだな…
同じくらいだったはずだ
あの…普段妹さんとあんまり会ってないんですか？
まぁ…こういう職業だからな
年に一回里帰りした時顔見せる程度か
……
ミーシャさん…かわいそう…


なんでだよ
だってせっかくお兄ちゃんがいるのに…
家族なのに…
なのに…一緒にいられないなんて
ミーシャさん…さみしいと思いますよ?
…きっと…
すごく…寂しがってると思います…


カチャ カチャ
あ…
じゃあな世話になったな
ま…
待ってください!!
アガットさん!!
わたし…もう迷惑かけません!
無理もしません!
言われたことはちゃんと守ります!
だから…!
おじいちゃんが…心配なんです!
お願いします!! わたしも一緒に…
おまえは被害者の身内で
ある意味今回の俺たちの依頼主だ
だから…まぁ…
協会に来て話を聞くくらいなら
別にいいんじゃねえか


全員揃ったようね
改めて確認をしておくわ！


間違いないわ キリカさん!!
ラッセル博士はレイストン要塞に監禁されてます
しかし…軍はなぜそんな乱暴なことを…
中央工房は長年王国軍と協力関係を築いてきたのに…
王国軍といっても一枚岩ではありませんから
何らかの陰謀が軍内部で進行しているのかもしれません
あの黒装束共も軍の関係者かもしれねぇのか…！
とにかく！証拠はつかめたわ！
あとはレイストン要塞に乗り込んで博士を返してもらうだけよ！
おじいちゃんは無事なんでしょうか…
そう簡単にはいかないわ



協会規約 第三項『国家権力に対する不干渉』
『遊撃士は国家権力及びそれが認めた公的機関に対して捜査・逮捕権を行使できない』
つまり軍がシラを切る限りこちらに手を出す権利はないのよ
また…それ!?
おかしいわよそんなの!!
市長や軍人はどんな悪いことをしてもいいっていうのっ!?
ただし
この原則には逃げ道があるわ



協会規約 第二項『民間人に対する保護義務』
『遊撃士は民間人の生命・権利が不当に脅かされようとしていた場合これを保護する義務と責任を持つ』…
ラッセル博士は役人や軍人じゃない
僕たち遊撃士に保護されるべき民間人ってことだよ
なーんだ
だったら何の問題もないじゃない!
エステル!
それにマードック工房長
ティータも…
みんなよく聞いてちょうだい
規約なんて解釈ひとつでいくらでも覆すことができるわ
だけど今回の案件は規約うんぬんを論議してすむような質のものではないの


これから
遊撃士協会が
やろうと
していること…
レイストン要塞に赴いて
ラッセル博士を救出すると
いうことは
リベール王国軍
……ひいては…
その後ろ盾である
女王陛下をも
敵に回す可能性が
あるということよ
これまで
築いてきた
互いの信頼関係を
こちらから
ぶち壊すことになる
今までと
同じような生活は
望めなくなる
かもしれないわ…


よく
考えて
たった一人の人間を
助けるためだけに
そこまでのリスクを
負う必要が
あるのかを——
…た…


たった…一人でも…
ラッセル博士が無事に帰ってくるだけで
ティータは…すごく喜ぶと思う
工房長さんも街の人達だって
みんなきっと嬉しいと思う
それだけじゃだめなの!?
規約とか軍とか…
難しいこと言われたってわかんないけど
大好きな人がいなくなって
とってもつらい思いをしてる子がいるってことだけは
あたしにもわかる!


だから あたしは博士を助けたい!!
悲しんでるその子も助けてあげたい!!
そうすることで新たに苦痛を強いられる人間が出るとしても?
だったらその人達もまとめて助けてみせるわ!!
その
人を守り支える籠手の紋章に誓って!!
それがあたしたち遊撃士の仕事でしょ!?


その軍だけど実は妙な雲行きになってきているの
渦中にあるレイストン要塞の軍総司令部と情報部
そして王都の王室親衛隊はともかくとして…
なぜかハーケン門の国境師団にも連絡が取れない状態なのよ
ハーケン門って…モルガン将軍にまで…?
王国軍内部で何らかの事件が起こっていることは確かだわ
心してかかりなさい
これがレイストン要塞の概略図と資料よ
内部の構造はここにある通り
問題はどうやって中に入るか…ね
あそこの警備は完璧に近いの
へー
導力センサーが周囲に張りめぐらされてるから外壁はもちろん湖からの侵入も難しいわ


…わかりました
すべての責任は私が取ります
遊撃士協会から正式な要請よ レイストン要塞に捕らわれているラッセル博士の救出をお願いするわ!
遊撃士アガット
キリカさん
エステル ヨシュア



残る方法は空からか…
無理よアガット！不審船は近づくだけで撃ち落とされちゃうわ！
そ…そうか…
あ あの
ライプニッツ号ならあやしまれずに要塞に入れるんじゃないですか？
そうか!!
中央工房の工房船は資材の搬入なんかで定期的に要塞へ行ってるから…
その船に乗せてもらえば!!
いや…
それは難しいな…クルーは全員チェックを受けるんだよ
なら積み荷にまぎれて忍び込むってのは？
それこそ不可能だ
積み荷はさらに生体感知器まで使って入念に調べられる
生体感知器!?
それがまたよりにもよって博士特製の優れモノでね…

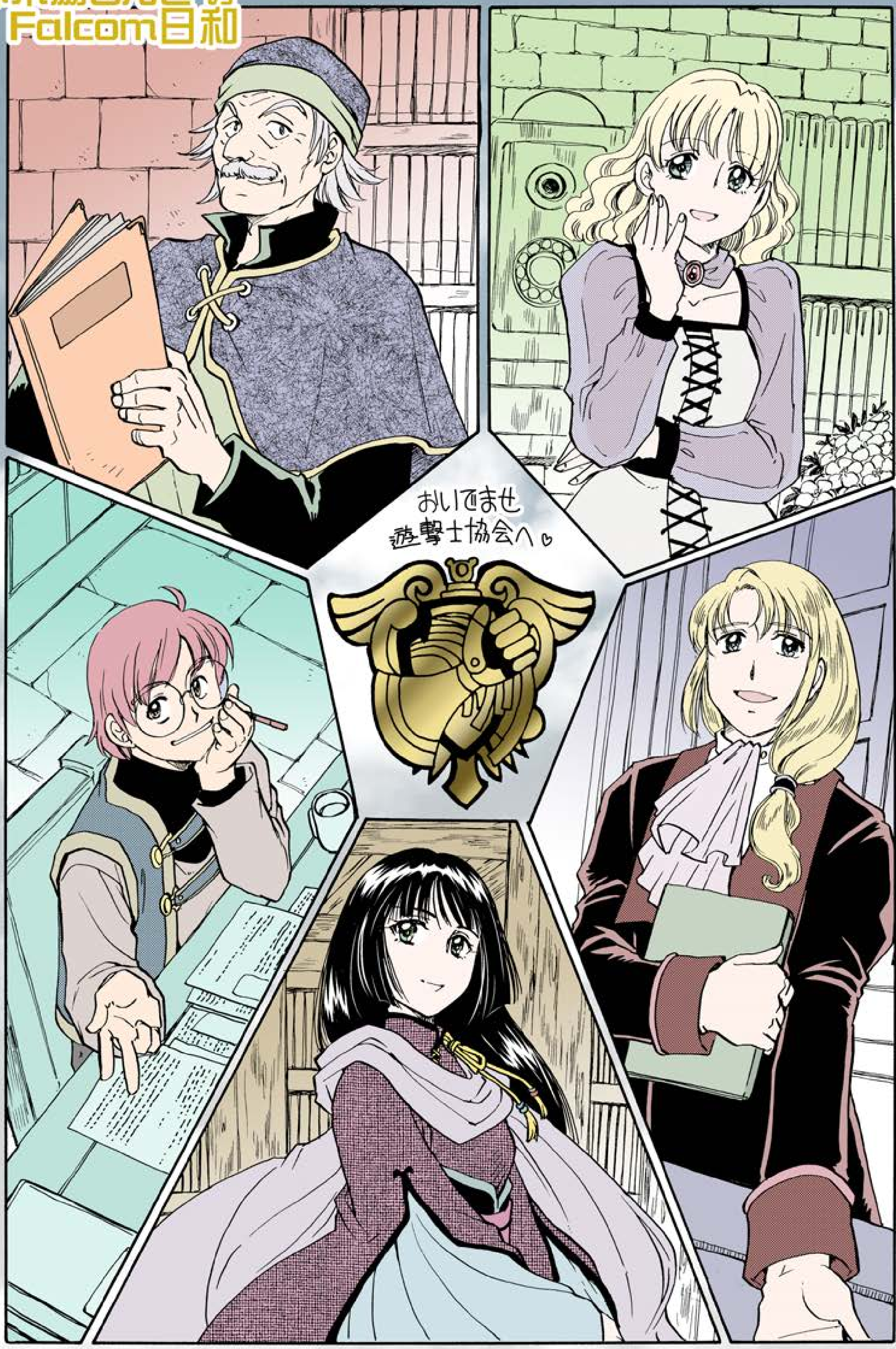


それなら…なんとかできるかも！
おじいちゃんが生体感知器を無効にする導力器を作ってたの!!
まだ試作品だけど…起動テストもしてあるから大丈夫だよ！
おー!!
決まりだな!!
だが…君たちはその導力器を動かせるのかね!?
博士の試作品は我々技術者でも手にあまる程難解だぞ!?
ウ…
ぜったいムリ!!
わたしなら…動かせます！
工房長！工房船の手配を頼めるか!?
もちろんだとも!!
わたしが一緒に行きます！


ええっ!?
ティッ ティータくん!?
あのなぁ
だって…あの導力器が動かないと要塞に入れないんでしょ!?
それを動かせるのがわたしだけなんだったら
わたしだってできる限りのことがしたいです!
わたしたちを助けようとしてくれてる人達の…
お姉ちゃんとお兄ちゃんとアガットさんの力になりたいの!
…ありがとう
こっちからも…お願いするわ!
ティータ…
じーん


ティータのことはあたしが必ず守るからね!
うん!
おまえらな
たく…
そのかわり足手まといになったりしたら容赦なく見捨ててやるからな!?
はっ
はいっ!!
なによーっ!! えらそーにっ!!
…話はまとまったみたいね

啄木鳥しんきのFalcom日和





ティオが、かすかに頬を染める。
「……ロイドさんと……もっと……」
「ん？　俺と……なに？」
「…………いえ、なんでもないです」
「？」
「ロイドさんと……なかなか見つからないという、みーしぇを探したいです」
「ああ、みーしぇか」
　みっしぃの妹のピンク色のマスコットだ。ワンダーランドのなかでも、とくに珍しいという噂だが、今日はいるのだろうか？
「探してみましょう……まずは、こちらから」
「わかった」
　そんなわけで、唐突に、みーしぇを探して園内を駆け回ることになった。
　捜査の基本は足だ！
　マップに×印を記入しながらエリアを絞り込んでいく。
　相手が動くといっても走って移動しているわけではないだろうから、こちらが素早く捜査ポイントを絞っていけば発見できる可能性は高い——はずだった。
広い。

英雄伝説 零の軌跡 ～午後の紅茶にお砂糖を～

特務支援課メンバーが過ごす
クロスベル自治州のゆる～い(?)日常！



第2回

エレボニア帝国とカルバード共和国という大国に挟まれながらも、自治州として独立していたクロスベルを舞台とした『零の軌跡』、『碧の軌跡』シリーズ。続編となる『閃の軌跡』、『創の軌跡』においても激動の中にあり、様々な壁が立ち塞がっていたが、怯むことなく立ち向かっていったのがロイド・バニングス率いる特務支援課メンバーだ。そんな特務支援課メンバーが、もしかしたら過ごしていたかもしれない日常を描く、魅力たっぷりの一冊をご堪能あれ！

製品情報
好評発売中
著　　　：むらさきゆきや
イラスト：窪茶
定　価：1,210円（税込）

ふたりで行動しているといっても、別行動というわけにはいかないから、必然的にひとりで捜査しているようなものだ。
ロイドは見晴らしのいい場所まで出て、息をつく。
「はぁ、はぁ……きつくなったら言うんだぞ、ティオ？」
「へいきです」
今日のティオは、いつになく元気だった。ロイドのほうが先にめげてしまいそう。

「はぁ、はぁ……ロイドのやつ……どういうプラン……してんだ⁉」
急に走りだしたものだから、尾行に気づかれたのかと思ったが、そうではなかったらしい。
いったい何が目的なのかわからないが、走り回るロイドたちを追いかけて、ランディたちも走らされていた。
エリィも肩で息をしている。キーアが青ざめた顔をしていた。
「あぅ……もう……だめ……キーアもう走れないよ……」
「無理するな、キー坊」

「でもひとりでは残していけないわ」
「ああ、そうだな。お嬢も残って休んでろ。俺はひとりで尾行する」
「そんな……」
「気になるのはわかるけどよ、キー坊をひとりにはできないだろ？」
「もちろん、そうね。じゃあ、落ち着いたら連絡して」
「りょーかい」
ふたりを残して、ロイドたちのほうへと足を向ける。
背後からエリィが声をかけてくる。
「ランディ、気をつけて……」
「フッ……大丈夫さ。ティオすけのセンサーは優れちゃいるが、テーマパークの騒がしさのなかじゃ、役に立たないハズだ」
「それじゃあ、私たちは休憩所へ行くわね」
「ああ、俺の代わりにアイスを買ってやってくれ」
「わーい、アイスー‼」
急に元気になったキーアに苦笑しつつ、ランディは走りだした。
しばらくして――

まるで犯人捜査のような熱意で走り回っていたロイドたちだが、さすがに疲労が溜まったのか、話しこんだ後、休憩所へと向かいはじめた。
ロイドが「もうすこしワンダーランドを楽しもう」と持ちかけ、「遊びながら探しましょうか」とティオが応じたわけだが。離れて尾行していたランディが知るよしもなかった。
休憩所に向かうロイドたちを見て、慌ててエニグマを取り出す。
「……やばい……出ないぞ」
そういえば、尾行任務ということでエニグマは音がしないように設定してあった。
鉢合わせなんてことになったら、大変だ！
ランディはエニグマでの呼び出しを繰り返した。

その頃、エリィは休憩所の店外にあるパラソルテーブルでくつろいでいた。
走り回っているランディには悪いと思ったが、休憩するからには最大限に休むのも任務のうちだ。
キーアにアイスを買ってあげ、自分はクッキーとアイスレモンティーを頂いた。
みっしぃのプリントされたクッキー。こんな日でなければ、ティオのためにお土産にしたかもしれない。
「あ」
キーアが指さす。
「なに？」
「ロイドとティオだ」
「え!?」
慌てて視線を向ければ、たしかに疲れた足取りで歩いて来るロイドたちの姿があった。
エリィは席を立つ。
「隠れるわよ、キーアちゃん！」
「なになに、こんどは隠れんぼー？」
「そんなところ！」
デートを尾行していたなんて知られたら、嫌われてしまうかもしれない……すくなくとも、ティオは喜ばないだろう。
店の外を走って逃げるだけの時間はないと判断し、エリィは目の前の店に入った。
建物の柱の陰に身を寄せる。
ほどなくして、ロイドたちが店に入ってきた。
ティオがメニューを指でなぞる。

「おすすめは、みっしぃカレーだそうです。甘口ですが、濃厚だとか」
「いいね。飲み物はどうする？」
「そうですね……私は、みっしぃソーダにします」
「じゃあ、俺は、みーしぇレモネードにしよう」
それぞれ、水色のソーダと、ピンク色のレモネードが出てきた。カレーも受け取って、外のパラソルテーブルに落ち着く。
エリィはふたりの様子を窺いつつ、バッグからエニグマを取り出した。着信が5件もある。
――しまった！
周りが騒がしかったから気づけなかったらしい。
すぐに連絡を返す。
「……ランディ？」
『よ～やく繋がったか！　お嬢、ロイドたちが――』
「あやうく見つかるところだったわ」
『ははは、まぁ、バレてないなら、セーフだな。目標の様子は？』
「様子……」
視線をロイドたちのほうへ移す。

ちょうど、レモネードを傾けたところだった。
「お、これ美味しいな」
「そうですか。実は、みーしぇレモネードと迷っていたのですが……」
「ちょっと飲んでみる？」
「⁉　…………いいのですか？」
「え？　そりゃ、味見くらいなら」
「量の問題ではないと思いますが……わかりました。では、い、いた、いただき、ます」
機械仕掛けみたいな固い動きでティオがレモネードのグラスを持つ。すこし迷ってから、グラスの端に唇をつけた。さすがに、ロイドの使ったストローを咥えるのは恥ずかしかったらしい。
なんとも初々しかった。
ぽつり、とエリィは漏らす。
「いいなぁ……」
『お嬢？　それが〝目標の様子〟の報告かよ？』
エニグマで通信中なのを失念していた！
「ハッ！　いえ、その……レモネードが美味しそうだったのよ」
『まぁ、そういうことにしておくか。俺も喉が渇いたな。ちょいと休ませてもらうか。店

での行動は、お嬢がフォローしてくれ』
「了解」
エニグマをバッグに戻して、ふと気づく。
キーアがいない⁉
慌てて店内に視線を巡らせる。
カウンターでジュースを受け取っているのを見つけた。
駆け寄る。
「キーアちゃん、なにしてるの⁉」
「ロイドと同じのが飲みたくなっちゃって」
「はぁ……もう勝手なことしちゃダメよ。びっくりしたじゃないの」
「はーい」
店員さんが安堵の笑みを浮かべる。
「ああ、よかった。お母さんですか？　みーしぇレモネード、30ミラになります」
「……ッ⁉　あの……まだ……18です」
「え？　みーしぇレモネードは、30ミラなんですが……？」
「私……この子の、姉、のようなもの……です。まだ18歳ですから」
「あっ、申し訳ありません！　大人びてらっしゃるもので！」

「いえ……」
ぺこぺこ謝る店員に、エリィは静かに30ミラを差し出すと、ゆらゆらとカウンターを離れた。
キーアが後をついてくる。
「ごめんね、エリィ。そんなに悪いことだと思わなくて……ジュース飲む？　ロイドが美味しいって言ってたよ？」
「……大丈夫よ、キーアちゃんはなにも悪くないわ」
大人びて見られることには慣れているが、子どもがいると思われたのは、ちょっとショックなエリィだった。
「ぐす……まだ18歳なのに……」
そこへ、ランディがやってくる。
「よお、調子はどうだ？」
「ちょっ⁉　ちょっと、見つかったらどうするつもり⁉」
「この店、裏側にも出入口があるんだよ。どうした？　浮かない顔して？」
さすが女の表情には鋭い。
でも相談するようなことではない、と思う。
「なんでもないわ」

「そうなのか？」
「ハァ～……こうして、テーマパークでキーアちゃんを連れてると、親子三人に見えたりするのかしらね？」
「なっ⁉　な、なに言ってんだ、お嬢⁉」
　ランディが珍しく焦っていた。
「どうかしたの？」
「いや、お嬢もたいがい……やれやれ、なんでもねえよ」
　キーアは、みーしぇレモネードを飲んで御満悦だった。
「おいしー‼」

　ロイドたちはランチのあと、いくつかのアトラクションを見て回り――
　陽が西に傾いてきた。
「もうすぐ日が暮れるな……」
「はい」
「夜には花火とかあがるらしいよ」

「え……あの……夜ですか」
「向こうに見える立派な建物は、ホテルかな？　そういえば、ミシュラムのホテルって、どこもすごく豪華だからな」
「ホテル……⁉」
　ティオの顔が赤くなっていく。
　ぱたぱたと手で首筋を扇いだりして。
　そんな彼女の様子など、ロイドは気づくはずもなく。
「ねえ、ティオ」
「……っ⁉」
「明日も仕事だから、暗くなる前に帰ったほうがいいと思うんだけど……ん？　どうかした？　疲れてるのか？」
「い、いえ……そうですね。わたしとしたことが……わかりました。では、次で最後にしましょう」
「どれがいい？」
「まだまだ、いっぱいありますが……えっと、あれに」
　ティオが選んだのは、観覧車だった。
　八角形のゴンドラが巨大な円を描いて廻っている。

「いいね」
「はい」
　ロイドはティオと、ゴンドラに乗った。ごうんごうんと昇っていく。
　ワンダーランドどころか、ミシュラムぜんぶが見渡せた。
　穏やかな午後の陽差しに包まれた楽園。
　ほぅ、とティオが吐息をこぼす。
「……素敵です」
「思い出に、なったかな？」
「え？」
「一生の思い出になるくらい……楽しめたかな？　俺は、ティオとの約束を果たせたんだろうか……？」
「ふふ……もちろんです。ありがとうございました、ロイドさん」
「よかった」
　ロイドは椅子に背を預ける。
　体から力が抜けていくような安堵を感じた。
　観覧車から降り、ロイドたちは正門に向かって歩きはじめる。

　途中、ふと売店に寄った。
「ロイドさん、なにか欲しいものがあるんですか？」
「いや……高価なものは買えないけど……これなんか、どうかと思って」
　ロイドは《ラバーストラップみっしぃ》を手に取り、差し出した。
　ぶんぶんとティオが手を左右に振る。
「そんな、悪いです。連れてきてもらったうえに」
「いや、今日はチケットまで用意してもらっちゃったからね。ティオさえ気に入ったなら、贈らせてくれないか？」
「もちろん、かわいいと思いますけど……」
　ティオが目を輝かせる。
「じゃあ、これを……」
「ロイドさん……」
　そのとき、楽しいテーマパークに不釣り合いな甲高い悲鳴が聞こえてきた。
「なんだ⁉」
「なにごとでしょうか⁉」
　商品はいったん置いて、ロイドは悲鳴のしたほうへと走りだす。すぐ後をティオも追いかけてきた。

逃げて来る客たちの間を縫って、ロイドたちは広場へと出た。
そこには、ペンギンに似た青色の魔獣が！
「ペングーだ！」
広場に青色のペングーが二匹いる。
まさかテーマパークに魔獣が出るとは思わなかった。
「ロイドさん、あれを！」
ティオが指さした先には、逃げ遅れている子どもの姿が。男の子がふたり、怖すぎて腰が抜けてしまっているらしい。
「あわ……わわ……わ……」
「うわーん!!」
そのふたりをかばうようにして、みっしぃが立ちふさがっている。
テーマパークのマスコットなのに!?
ロイドは素手のままだが、ためらっている暇はなかった。市民の安全を守ってこその警察官——特務支援課だ！

全力で駆け寄り、ペングーの前へと飛びだす。
「クロスベル警察です！　ここは俺たちに任せてください！」
「みなさん、早く逃げてください」
ともに駆けつけたティオが、市民を安全なところへと誘導する。
子どもたちの手を引きながら、みっしぃが頭をさげた。
「みししっ、ありがと～」
こんな状況にもかかわらず役柄を崩さないとは……ロイドは妙なところで感心してしまった。
ティオは感動に震える。
「じーん……特務支援課に出向して以来、こんなにうれしかったことはありません」
「えぇっ、そこまで!?」
「負けられませんよ、ロイドさん」
「あぁ、もちろんだ！」
ティオが魔法に意識を集中させる。足元に魔方陣が浮かびあがった。
「……エニグマ、駆動」
「速攻でケリをつける！」
今にも飛びかかってこようとするペングーの機先を制して、ロイドは間合いを詰めると

拳を叩きつけた。

ぎょわ！　ぎょわ！　とペングーが声をあげて、のけぞる。

「……ぐッ‼」

ロイドの拳に痛みが走った。

もう一体のペングーが嘴でつついてきた。

キシャー‼

おじぎするような動作は愛嬌があるものの、ハンマーのように重たくて固い嘴を体ごとぶつけてくる攻撃だ。その威力は半端ではなかった。

「ぐあっ⁉」

「ロイドさん⁉　この……ダイアモンドダスト‼」

足元に冷気が広がる。

ペングーの周囲に白い結晶が集まった。

氷の槍が現れる。

魔法で作られた無数の氷槍が、魔獣へと向かって飛ぶ。

命中するたびに冷気を撒き散らして氷が砕け散り、美しい輝きを放った。

水系の強力な攻撃魔法だ。

ぎょわ～～ッ⁉　と青色のペングーたちが悲鳴をあげる。

がっくりと動かなくなった。

どうやら魔獣たちは戦意を喪失したようだ。

ティオが息をつく。

「ふぅ……敵集団、撃破しました」

「やったか……」

ところが、またも甲高い悲鳴が聞こえた。

広場にある建物の陰から、赤色のペングーが現れたからだ。しかも、八匹も！

ロイドの背筋が凍りついた。

――あんなにも数が多いなんて‼　ふたりだけでは、防ぎきれない。

魔獣たちが、グアグアと叫びながら、逃げる客を追いかける。

「やめろー‼」

ロイドは駆けつけて、赤色ペングーの横面に一撃を食らわせた。相手の注意を引きつける。

しかし、多すぎる。

六匹ほどが散り散りになって客たちを追いかけ回す。

ティオの魔法も、これほど散り散りになられては、効果範囲に捉えきれない。

――このままでは、みんなを守れない！

「くっ……どうすれば⁉」
そのとき、物陰から長身の男が走り出てきた。
聞き慣れた声が響く。
「こっちは俺に任せときな！　おおぉぉぉ……‼　クリムゾンゲイル‼」
巨大な斧槍が、ペングーたちを薙ぎ払った。
続いて、発砲音があがる。別の方向へと走っていたペングーがもんどりうって倒れた。
「ここは通さないわ！」
現れたのは、パールグレイの長髪をなびかせる美しい少女だった。
ロイドは驚いて声をうわずらせてしまう。
「ラ、ランディに、エリィも⁉」
ティオも目をしばたいた。
「……おふたりとも……どうしてここに⁉」
離れたところから、「ロイド、ティオ、がんばれー‼」と声がした。
「キーアまでいるのか⁉」
「おしゃべりは後だ！　こいつが必要だろ、ロイド！」
ランディが放り投げたのは、使い慣れた装備（トンファー）だった。
「持ってきてくれたのか⁉」

「こんなこともあるかもしれん、ってセルゲイ課長がな！」
「すまない、ランディ‼」
ティオが再び魔法の魔方陣を浮かびあがらせる。
「エニグマ、駆動……みなさん、お願いします！」
「まかせて！」
「おっしゃぁぁッ‼　とっとと終わらせるぜ！」
「よし、一気に行くぞ！」
ランディたちの加勢を得て、ロイドとティオは魔獣を撃退することに成功した。

魔獣が現れた原因は、柵の取りつけ不良だった。
弱っていたところがあって、壊されて入ってこられてしまったらしい。
ミシュラムの保安責任者が何度も頭を下げて感謝してくれた。
それよりも、ティオには、みっしぃのお礼ひと言のほうがうれしかったようだが……
「本当にありがとうございました！　今から、すべてのフェンスを入念に点検しなおし、がっちり補強します‼」

責任者の人が固く約束してくれた。
ロイドはうなずいて返す。
「そうしてください。楽しい場所だからこそ、安全第一ですからね」
ＭＷＬを出た頃には、すっかり西日が差していた。
「いや～、だいぶ遅くなっちまったな～」
ランディがぼやく。
キーアが大きなあくびをして、エリィが気遣う。
「自分で歩ける？」
「へーき……むにゃ……んにゅ」
いつも通りの平和な特務支援課の風景だ。
ティオがジト目なこと以外。
「……それで？　どうしてミシュラムにいたのですか？」
「ギクッ」
ランディが目を逸らす。
そういえば、とロイドは小首をひねった。
「たしかに妙だな。ランディもエリィも非番じゃないはずなのに」

「あ、いや……今日のは支援要請だったんだ。そうだよな、お嬢？」
「えっ⁉　私に振られても……」
「エリィ～、もう隠れんぼしなくていいの～？」
「ちょっ、キーアちゃん⁉」
ティオの表情が曇っていく。
「……つまり、わたしとロイドさんを、つけてきたのですか？」
「えっ？　そうなのか？」
ぶんぶん、とランディが首を横に振った。
「ち、違うって！　偶然！　お、俺は……そう！　お嬢とデートしてたんだよ！」
「ええっ⁉　じょ、冗談じゃないわよ！　そんなこと絶対にしません！」
「お嬢、ここは話を合わせるとこだろ⁉」
「そんなこと言われても……だ、だめよ、そんなの」
頬を染めてエリィがうつむく。
ティオが口をへの字にした。
「エニグマ、駆動……」
ぶおん、と魔方陣が広がっていく。
「えっ、ティオ⁉」

慌ててロイドは止めに入るけれども、気づくのが遅れた。
耳まで真っ赤にしたティオが、ランディへと手を突き出して――魔法を発動する。
「お仕置きです！　アイスハンマー‼」
「うひゃ～～～～～～～～～～～～～～～～～⁉」
夕焼けに染まるミシュラムの桟橋に、騒がしい悲鳴が響きわたるのだった。

FALCOM MAGAZINE SPECIAL プレゼント‼

アンケートにお答えいただいた方から抽選で
ここでしか手に入らないアイテムをプレゼント！



3名様

『も～っと集まれ！ファルコム学園』缶バッジ

大人気‼ オリジナル缶バッジを5個セットで3名にプレゼント！　※絵柄はランダムです。

ご応募は特設サイトまで▶ http://www.field-y.co.jp/root/falmagap/

メールでご応募の場合は下記フォーマットに記入のうえ、（falmaga@field-y.co.jp）まで
お送りください。当選者には編集部よりメールにてお知らせ致します。

件名：vol.172プレゼント係
1：お名前（ペンネーム可）
2：面白かった記事の番号→
つまらなかった記事の番号→（記事一覧から1つずつ）
3：アンケート①「メモワール」としてプレイしてみたい過去のファルコム作品は？
アンケート②『空の軌跡 the 1st』で「こうなっていたら良いな」と思うことは？
4：希望するプレゼント番号
5：ご意見・ご感想など

記事一覧

1:『空の軌跡 the 1st』特集
2:も～っと集まれ！ファルコム学園
3:ファルコムニュース
4:『イース・メモワール-セルセタの樹海-オリジナルサウンドトラック』音楽レビュー
5:英雄伝説 空の軌跡
6:啄木鳥しんきのファルコム日和
7:英雄伝説 零の軌跡 午後の紅茶にお砂糖を

応募締め切り　6月25日（水）

メールにてお送りいただくお名前やご住所等の情報は、商品の発送のためにのみ利用し、そのほかの目的には利用致しません。
また、情報は応募締め切り後3ヶ月を越えて保有することはありません。



月刊 FALCOM MAGAZINE Vol.172

発行人	田中一寿
発行協力	日本ファルコム株式会社
編集	小渕智幸 河野崇
デザイン・DTP	株式会社 ACQUA
表紙ロゴデザイン	荻窪裕司（デザインクロッパー）
発行	株式会社フィールドワイ 〒 101-0062 東京都千代田区神田駿河台3-1-9　日光ビル3F TEL 03-5282-2211（代表） http://www.field-y.co.jp/